

プログラム番号	06056
---------	-------

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

①大学名 研究科名	芝浦工業大学 工学研究科		
②学長名	平田 賢		
③所在地	〒135-8548 東京都江東区豊洲3丁目7番5号		
④担当者 連絡先	所属部局・職名	総合企画部 国際交流課	
	担当者氏名	丁 龍鎮	e-mailアドレス kokusai@ow.shibaura-it.ac.jp
	電話・FAX番号	電話:03-5859-7140 FAX:03-5859-7141	
⑤ホームページ URL	https://office.shibaura-it.ac.jp/kokusai/hb/06hybrid.html		
⑥大学院在学留学生数	22人(うち、国費留学生 0人)		

【2. プログラムの概略】

①プログラムの名称	ハイブリッド・ツィニングプログラム
②プログラムの形態	博士課程一貫(合計4年間)
③実施研究科・専攻	工学研究科 地域環境システム専攻
	(所在地) 東京都江東区豊洲3丁目7番5号
④連携大学・研究科・専攻名	機能制御システム専攻、電気電子情報工学専攻、材料工学専攻、 応用化学専攻、機械工学専攻、建設工学専攻
⑤受入れ学生数	8人(うち研究留学生優先配置人数: 4人) (うち日本人学生数: 0人)
⑥担当教員数	合計 21人(うち専任: 21人、兼任: 0人、非常勤: 0人)
⑦研究科長(代表者)名	所属部局・職名 工学研究科 科長(教授)
	研究科長名 村上 雅人

【3. プログラムの内容】

【プログラムの内容】

本プログラムは、本学がパートナー大学と連携(ツイニング)し、修士課程と博士課程を複合(ハイブリッド)化して行う大学院国際共同教育プログラムであり、受入れ留学生に英語による教育・研究指導を施して、両大学の修士と本学の博士の学位を授与するものである。(図1参照)

具体的には、我が国が今後政治・経済・産業・文化・学術活動全般にわたって関係を強化し、共生を図るとしている東南アジア諸国における代表的工科大学をパートナー大学として推進するもので、まずは、その修士1年次修了時点のトップ10%の大学院生を受入れて、修士2年次より英語による教育と研究指導を行って修士課程を修了させ、本学とパートナー大学双方が修士学位を授与する。その上で、さらに本学の博士課程に進学させ、同じく英語による教育と研究指導を行い博士の学位を授与したのち、各大学に帰学させるものである。学生は個別には募集せず、パートナー大学が将来の自学の教員として嘱望し、あるいは、それぞれの国の将来を担うリーダーとなる人材と認定して推薦する者の中から、書類ならびに面接によって選考し、編入学試験ののち入学させるもので、あくまで大学間協定に基づいてパートナー大学と行う連携プログラムである。

修士課程2年次への受入れは、本学とパートナー大学におけるカリキュラムの充実・開発・摺り合わせを必要とし、相互評価を行うなど相互の強い連携が前提となる。同時に、本学及びパートナー大学双方が修士号を授与することで、パートナー大学における大学院教育の実績積み上げにも貢献し、その一方で国際的共同プログラムであることの認識を深め、双方の紐帯強化が実現できる。

現在のパートナー大学は、本学とともに東南アジア工科大学コンソーシアム(SEATUC: South East Asian Technical University Consortium)を構成し、相互に多面的な学術的連携を図っているベトナム、タイ、マレーシア、インドネシアにおける代表的工科大学であるハノイ工科大学、キングモンクット・トンブリ工科大学、マレーシア工科大学、バンドン工科大学である。また今後は、ラオス、ミャンマーにも拡大する計画を持っている。

なお、2006年度まで推進してきた本学奨学金による同名の博士課程に直接入学させるプログラムも、今後部分的に継続していく。(図2参照)

【プログラムの概略】

1. 教育体制

電気・電子工学、情報工学、材料工学、応用化学、機械工学、建築・建設工学、工学マネジメントの7分野21名の教員で構成(2006年度)されている。今後も順次、担当教員の増強を計画している。また、本学とパートナー大学間で開催する国際シンポジウムでは、本プログラムの進行状況報告のほか、新年度受け入れ学生を母国に同道し、それまでの成果を研究発表させている。

2. 使用言語

単位取得のための授業ならびに修士課程、博士課程双方における研究指導全てを英語で行なう。また、本授業は日本人学生にも正規カリキュラムとして公開し、本学学生のグローバルセンスの涵養のチャンスとして活用し、東南アジア諸国との共生の意義を認識させている。なお、日本滞在を恙無く完了するために必要な最低限の日常会話程度の1年間30時間の日本語教育を継続的に施している。

3. 募集方法

本学の協定締結校の中で、本プログラムに関する学生交流協定を締結している大学(パートナー大学)に応募書類を送付し、それぞれの大学の学長からの推薦者を応募者として受け付けている。

4. 学内選考方法等

パートナー大学から推薦された学生は、まず①国際交流センター委員会での書類選考を経たのちに、②担当教員委員会で応募書類と推薦状などに基づいて能力、成績、研究計画と適性、受け入れ分野と予定指導教員との適合性などを判定して選考される。③さらにテレビ会議システムおよびインターネットを介してインタビューで絞って受け入れ、④編入学試験を施した後、修士課程2年次10月期学生として入学させる。

5. 修了後の進路・効果

本学に修士2年次を修了し修士号を取得した者のうち、指導教員から推薦のある学生全員が博士課程に進学する。博士課程修了者は基本的に全員来日前のパートナー大学に帰学する。ただし、一

部の学生には本学のポスドク研究員として、さらなる研究経験を重ねることを許可する。

各大学に教員として復帰する者の活動を通じて、我国および本学への留学意欲を持つ集団が拡大でき、我国の工学教育と技術展開に親和感を持つ学生の再生産が行なえるので、我国とそれぞれの国との共生関係構築に貢献することが期待出来る。

6. 帰国後のフォローアップ体制

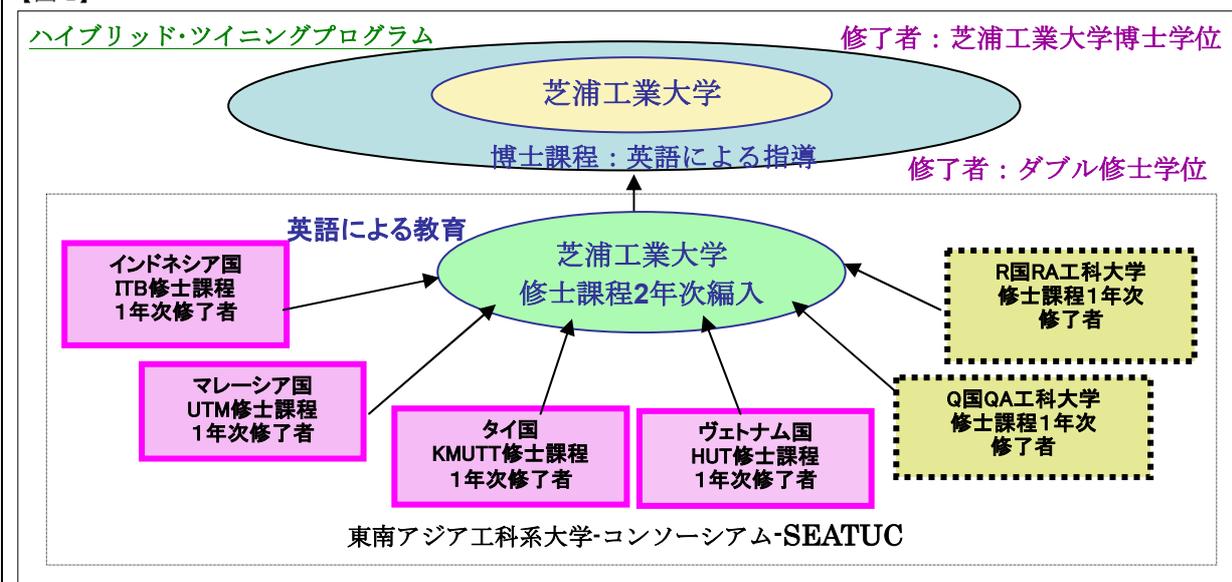
本プログラムの各パートナー大学の学長室ならびに本学学長室を核とし、本学の在外出先機関である在クアラルンプールのマレーシア・ツイニング教員室を東南アジアにおける支援拠点とし、さらに各国のハイブリッド・ツイニング修了者を含むOB会の協力も得て、強固な帰国後のフォローアップ体制を構築する。

7. 本プログラムの点検・評価の体制

学内評価委員会（自己点検委員会）と2種類の学外評価委員会を設置している。その具体的な内容としては、学長を委員長とし、国際交流センター長を副委員長とする「ハイブリッド・ツイニングプロジェクト委員会」を自己点検委員会として運用し、本プロジェクト推進のための全学態勢の形成と自己点検を行なっている。さらに、学外有識者による国内メンバー・学外評価委員会、学生を推薦する立場からの評価を受けるためパートナー大学の学長を委員とする国外メンバー・学外評価委員会をそれぞれ設置している。

2006年5月に開催した国外メンバー・学外評価委員会では、パートナー大学全てから、自学の大学院の国際性の向上と、自国と我国との共生関係の確立、共同研究基盤の醸成に欠かせないものとして高い評価を受けた。これを受けて、本学と4大学により東南アジア工科系大学コンソーシアム（SEATUC : South East Asian Technical University Consortium）を創成する申し合わせの合意が得られ、本プログラムを含む包括的な交流事業を展開することになった。

【図1】



【図2】

